



陸上と思ふな
人生と思え

田口宣督二、今後の展望二

は、陸上においてだけ重要とい
わけではありません。自ら動く（＝自立
する）ことを養うことで、勉強や社会生
活にも繋がっていきます。

とりわけ、子どもたちに白石監督が声
を大にして伝えてるのは、「陸上と思
うな、人生と思え。」という言葉です。
中学生にとってなかなか実感が湧きにく
い言葉かもしれませんが、「目標設定→
行動→達成」のサイクルを繰り返してい
るうちに成功体験が増えていき、陸上だけ
ではなく、自然と自分の人生に反映す
るようになります。この指導によって人
生が変わった教え子たちのエピソードを
次頁で紹介しています。

また、白石監督は自身にも「教師と思

に就いています。教師は生徒の人生に大きな影響を与える存在です。知識を与えるだけでなく、人間としての成長や価値観の形成に影響を与える職業です。たとえば、仕事・職業と考えず、自分の人生ないしは子どもの人生と考えて指導に取り組んでいます。子どもたちが彼女の教えを吸収し、成長していく所以はここにあるのではないか。



絶対に 決して 決して 諦めない
NEVER NEVER NEVER GIVE UP

白石監督に、今後の展望についてお伺いしました。

「陸上競技が好きな子どもたちを、もっとたくさん育てていきたいです。現在は伝統など長距離が目立っていますが、短距離でも、走りきでも跳躍でも、スピードでも跳躍でも全国や世界で活躍できる選手を育てたいと思います。そして、「行橋の名を陸上で全国に広めていきたいです。それには今後、本格的な部活動の地域移行が重要であると考えています。教員の負担軽減だけではなく、プロの指導による技術力の向上が期待できます。また、教員という仕事は、子どもたちの未来を切り拓くことができる、とてもやりがいのある職業です。私と生徒の関りを見て、教員をめざしてくれる人が一人でも増えてくれたらと願っています。」

「仕事と思うな、人生と思え。中学陸上と思うな、人生と思え。NEVER NEVER NEVER GIVE UP ! 自分に負けるな。」この気持ちは忘れずに、今後も突き進んでいきたいと思っていま

A group photograph of the Japanese national youth track and field team. The team consists of approximately 20 members, including athletes in orange and blue uniforms and a coach in a dark jacket, posing on a red running track. They are arranged in three rows: a back row standing, a middle row kneeling, and a front row sitting cross-legged. The background shows a stadium with trees and a large white building under a clear sky.

行 全国大会に25年連続で選手を輩出する伝説の指導者がいます。保健体育教師の白石京先生（以下、白石監督）です。

白石監督率いる京中京中陸上部は、昨年11月に開催された福岡県中学校駅伝競走大会で優勝。全国中学校駅伝大会に出場し第10位の成績を収め、京築地域初の快挙となり報じられました。ほかにも、8ヶ月に同校出身、福岡第一高校3年生の中谷魁聖さんが、インテルハイの走高跳で高校新記録と大会新記録を樹立し、優勝。さらに9月には、国スポーツで高校記録を更新するなど、教え子たちの活躍が各メディアを通して伝えられています。

指導者によつて、指導力によつて、子どもたちは変わる——。市内は元より市外からも彼女の指導を求め、生徒が集まっています。多くの生徒が支持する、その指導方法とは。今回の特集では、白石監督の指導方法やマインドにクローザアップ。

け、自身も教師をめざしていました。中学校の教師を選んだのは、高校で全国大会という大きな舞台を経験させてもらい、自分も教え子に経験させてやりたいと思うようになつたことがきっかけだそうです。

指導者となりましたが、初めから全くうまくいったわけではありません。大きな転換期を迎えたのは、教員8年目のこと。今でも師と仰ぐ大阪教師塾の塾頭である原田隆史さんとの出会いです。原田さんの下には、全国から同じ志を持つ教員が集まつており、白石監督は月に2回程度大阪に通っていました。

以前は「楽しくやる」ことを信条にしていましたが、大阪教師塾で目標達成の重要性を学び、「陸上を通して自立する人間を育成していく」と指導理念が変わっていました。

「誰と出会うか」「どんな指導者と出会うか」ということも、人生において大変重要な要素であると気付かされます。

いくという仕組みを作り、子どもたちの成長を促します。きちんと目標を設定することでも、目標達成のために何をすべきか生徒自身が考えるようになります。ここで生徒とのやりとりに使われているのが「陸上目標設定シート」（次頁で紹介）です。一人ひとり明確な目標を設定させ、そのためにはすべきことを部活動だけでなく、生活面等についても記します。記することで心に残ります。うまくいかないときも、シートを見直すことでやる気をファイードバックします。

CLOSE UP

陸上と思うな、
人生と思え！

誰と出会うかによって
人生が変わる

目標設定と達成、成功体験が人を育てる

PILOEUIL E

長崎県出身。高校時代、走り幅跳びでインターハイ出場。大学卒業後、教員となる(長崎県で14年間、福岡県で19年目)。泉中学校を経て、現在、中京中学校に在籍。陸上競技部の監督を務め、クラブチームのコスマスACでコーチとしても活躍。今年度のインターハイには、教え子4名が6種目に出場。





NEW PHOTOGRAPHY



BSよしもと「桂文枝の全国の首長さんに逢いたい」の収録で、落語家の桂文枝さんとM-1グランプリ2024ファイナリストのエバースが市役所にやって来ました。市内の様々なスポットで行われたロケの模様が、上記日程で放送されます。BS256chでお楽しみください。

27 | 2025.2



リブリオ行橋
キッズルームに色鮮やかな壁画アート

来館者 100 万人突破を記念して、行橋市出身で世界的に有名なスペイン在住の画家 九十九伸一さんに、壁画アートを制作していただきました。真っ白な壁にアートが融合し、温かみのある空間が完成しました。2階キッズルームで一部時間を除きご観覧いただけますので、ぜひお越しください。

“白石イズム”によって、人生が変わった教え子たちを紹介。

01

TEPPEI MAEDA
前田 徹平 さん

2002年生まれ。小学4年生から陸上を始め、中学1年生から白石先生の指導を受ける。2017年男子1500mで全国大会に出場。現在、順天堂大学スポーツ健康科学部健康科学科4年生。陸上競技部長距離プログラク駅伝主務。

白石先生の下、陸上競技を行い人生が変わりました。ただ走るだけだと思っていた陸上競技ですが、普段の生活が陸上の結果に繋がることを学び、日常生活、学校生活、食事、休みの日の過ごし方、メンタルコントロールなど陸上で結果を残すために様々なことに取り組んできました。特に、「当たり前のことを行なう」ことを気付けました。基本的な礼儀や言葉遣いなど、小さなタスクをきちんとこなすことで、信頼関係の構築や団体全体の機能性の向上、幸福感の上昇に繋がるということを学びました。また、白石先生の「自分にとって価値ある目標を設定し、段階を追って達成する」という言葉を今でも大切にしています。自分の進むべき道を明確にし、モチベーションを持続けるためにとても重要なことです。その目標を一度に達成しようとと思うのではなく、スマルステップを踏みながら段階的に達成できるように常に心がけています。



陸上目標設定シート

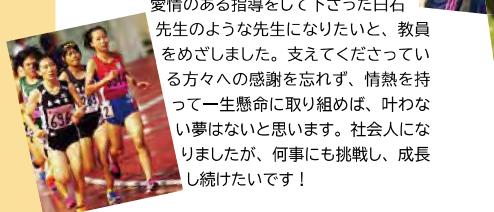
02

RIRIKA ARIHIRO
有廣 璃々香 さん

2001年生まれ。中学1年生から陸上を始め、白石先生の指導を受ける。2019年U20日本陸上競技選手権大会 女子800mで優勝。現在は、みやこ町で小学校教員として活躍。

中学で陸上を始め、右も左も分からなかつた私に、白石先生は「全国大会に行く」という夢を与えて頂き、それを実現させて下さいました。全国大会で準決勝進出が決まり、抱き合って喜んだ瞬間は忘れられません。そして、時に厳しく、時に優しく、

愛情のある指導をして下さった白石先生のような先生になりたいと、教員を目指しました。支えてくださっている方々への感謝を忘れず、情熱を持って一生懸命に取り組めば、叶わない夢はないと思います。社会人になりましたが、何事にも挑戦し、成長し続けたいです！



03

KURUMI BŌRU
ボール来未 さん

1997年生まれ。旧姓：石丸来未。小学校1年生から陸上競技を始め、中学1年生から白石先生の指導を受ける。2012年、全日本中学校陸上競技選手権大会女子砲丸投げで優勝。

競技だけでなく、礼儀や日常的な行動についても学ぶことができ、社会に出てからもとても役に立っています。私は、物事を難しく考えてしまいがちでしたが、先生の指導はとても分かりやすく、イメージしやすかったです。試合前は必ず「あんたならやれるけん！」と声かけてくださり、心強かったです。当時は、練習内容や決まり事等他校に比べると厳しいのでは？と思うこともありましたが、本気の選手には必ずサポートしてくださるので、他の選手と目指すレベルが違う！同じことをしていても強くはなれない！と気づき、次々方が変わりました。

今回のクローズアップでは、指導者として活躍する中京中学校陸上部・白石監督の指導方法やマインドについてご紹介しました。「陸上と思うな、人生と思え」。この言葉は、陸上だけのものではありません。バレー部の子も、書道部の子も、部活動をしていない子も——。勉強において、社会において全てに当てはまる言葉です。何事も自分の人生として捉え、目標を設定して着実に歩んでいくことの大切さが込められています。簡単で構いません。ノートでもスマートフォンでも構いません。年齢に関わらず、目標や目標達成のための行動を書き留めてみませんか。成長への道しるべがそこにあります。